

新潟県中越地方における2チーム分けジャンケンのかけ声

Distribution of the Dialectal Variation in Words for Janken to Divide People into Two Groups in Chuetsu Region, Niigata Prefecture.

佐々木 香 織*

要旨

これまでの新潟県内の調査結果と同様、中越地方の2チーム分けジャンケンのかけ声は、県央部でゲーとチョキによるものが多く見られるが、それ以外の地域では、ゲーとパーによるものが多数派を占めている。ウラオモテ系のかけ声は、各地域で散見できるが、学区内で最多回答になるほど普及しているところはごくわずかである。

キーワード：2チーム分けジャンケン ウラオモテ 新方言 言語地図

1. はじめに

本稿では、本学で日本語学を受講する学生のアクティブラーニングの一環として2013年から継続して行っている郵送による新潟県内の小中学生を対象にしたジャンケンのかけ声調査のうち、2014年度、2015年度、2016年度に実施した中越地方の調査結果から、2チーム分けジャンケンのかけ声を主に中学校区ごとに言語地図上にまとめ、同地域における分布状況を明らかにする。この地方も2チーム分けジャンケンのかけ声はバリエーションが豊富で、新方言形と考えられるウラオモテ系のかけ声は県央部や長岡市のいくつかの学校で見られた。また下越地方の村上市、新発田市で多く見られたゲーとチョキによる2チーム分けは三条市、見附市、出雲崎町、十日町市中心部以外では散見できる程度で、中越地方全体ではあまり行われておらず、かけ声は様々だが、ゲーとパーによる2チーム分けがより一般的であることがわかった。

2. 調査の概要

本調査は、2013～16年の主に6月～7月にかけて、調査協力校の全中学1年生、または、その中学校区内の小学校の6年生を対象に実施した郵送によるアンケート調査である。協力校の児童・生徒には担当の先生の監督のもと、無記名で自分が学校で使う普通のジャンケンと2チーム分けのジャンケンのかけ声を調査票（注1）に記入してもらった。自分が使うかけ声以外の聞いたことがあるかけ声についても、語形や聞いた場所、時期等を記入してもらった。中学生には出身小学校も記入してもらった。欠席者や記入しない生徒もいたので、全員から回答を得たわけではないが、各校区のジャンケンのかけ声を知る上では十分なデータが得られたと言える。

中越地方での調査実施状況（地域内の中学校区数に対する調査実施校の割合）と各校の回答率

* SASAKI, Kaori [非常勤講師]

(各調査校の在籍数に対する回答者数)は調査校一覧表(注2)の通りであるが、2016年度時点で、実施率は100%、回答率とも平均で9割を超え、ほぼ中越地方全域を網羅することができたといえる。

3. 中越地方における2チーム分けジャンケンのかけ声分布

普通のジャンケンのかけ声は、ほとんどの回答が「さいしょはぐー じゃんけんぽん」または「さいしょはぐー じゃんけんばい」であり、地域差はあまりない。一方、2チーム分けジャンケンのかけ声は、地域や学校ごとに特色のあるかけ声が使われていることがこれまでの調査で明らかになっている。中越地方においても同様であるが、グーとパーを使う学校が多く、またグーとチョキで分けるものや、手の甲と掌を使う「うらおもて」系の回答が多い学校が、県央地区に多く集まっている。以下に中越地方をいくつかの地域に分けて、分布状況を示す。ただし、燕市は、拙稿(2013)で、弥彦村は同(2014)で、すでに述べたので、ここでは省略する。なお、地図はYahoo Japanに掲載されているZENRINのものを使った。また各円グラフの大きさは、回答者数に対応していない点、留意する必要がある。

3-1 田上町、加茂市、三条市の2チーム分けジャンケンのかけ声分布

図1 田上町、加茂市、三条市の2チーム分けジャンケンのかけ声分布図

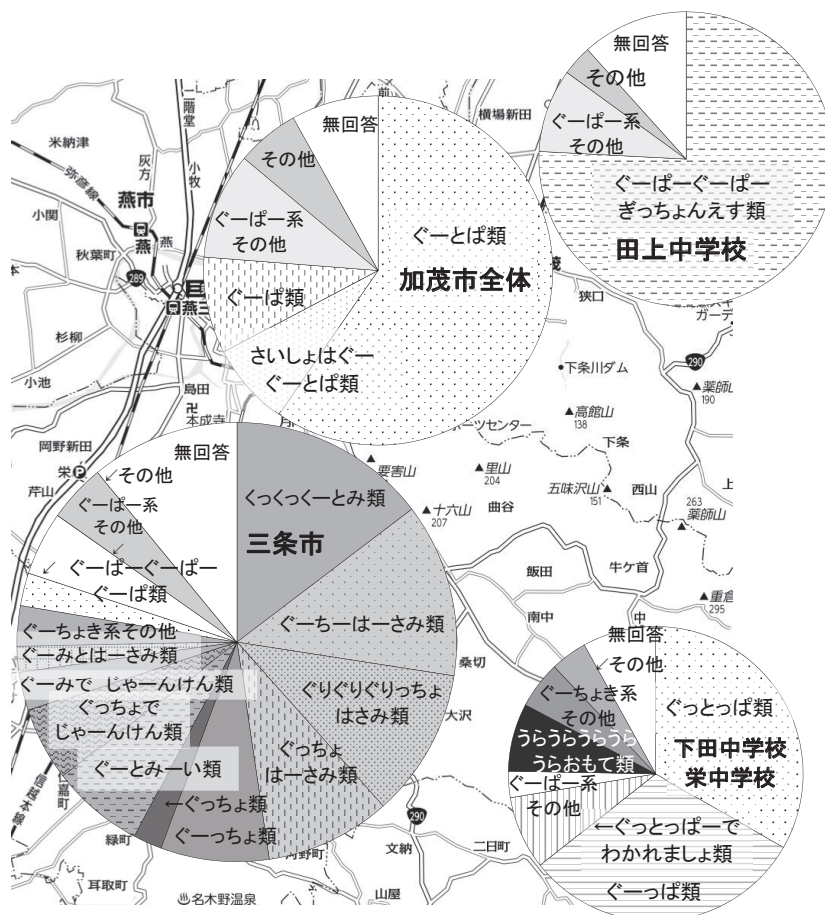


図1のように、三条市では、旧南蒲原郡の下田中学校、栄中学校以外でグーとチョコキを使う2チーム分けが主流になっている。学校ごとに一番多く使われているかけ声が少しずつ異なっており、三条第1、第2中学校では「ぐりぐりぐっちょ はーさみ類」が最多で、三条第3中学校では「ぐーとみーい類」、三条第4中学校では「ぐっちょーはーさみ類」、大崎中学校では「ぐーちょ類」、本成寺中学校では「ぐーちーはーさみ類」が最多となっている。また、大島中学校は、複数回答者が多く、「ぐーりちょはーさみ類」と「ぐーちーじゃーんけん類」という回答がそれぞれ全体の3分の1程度あった。旧南蒲原郡の下田中学校は「ぐーば類」が、栄中学校は「ぐとつぱ類」が半数以上を占めている。また、西隣の燕市にある吉田中学校や、長岡市の一部の学校で比較的良好に使われている「うらおもて類」のかけ声は、三条市では栄中、第4中に少数見られる程度である。

三条市の北隣、加茂市では須田中学校で「ぐーば類」が最多回答になっている以外、他の中学校では「ぐーとば類」が主流である。また加茂市の北東隣の田上町は、「ぐーぱーぐーぱーぎっちょんえす類」のかけ声が回答の4分の3を占めている。

3-2 見附市、長岡市栃尾地区、長岡市北部、出雲崎町の2チーム分けジャンケンのかけ声分布

図2 見附市、長岡市栃尾地区、長岡市北部、出雲崎町の2チーム分けジャンケンのかけ声分布図

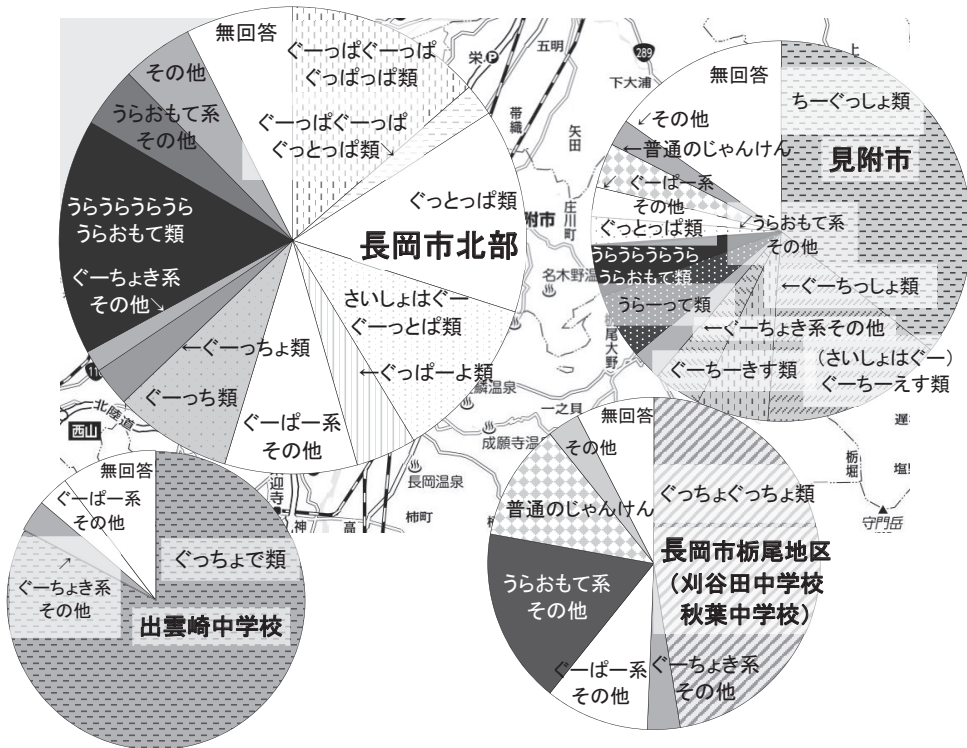


図2の通り、この地域でも手の甲と掌を使う、ウラオモテ系のかけ声が見られる。見附市は4つの中学校があるが、このうち、信越本線の西側にある今町中学校で、回答のおよそ3分の1を「う

多くの場合、ウラオモテ系のかけ声と、グーパー系のかけ声が併記されている。両者の使い分けがどのようになされているのかについては、今後の調査が待たれる。

3-4 長岡市南部、小千谷市の2チーム分けジャンケンのかけ声分布

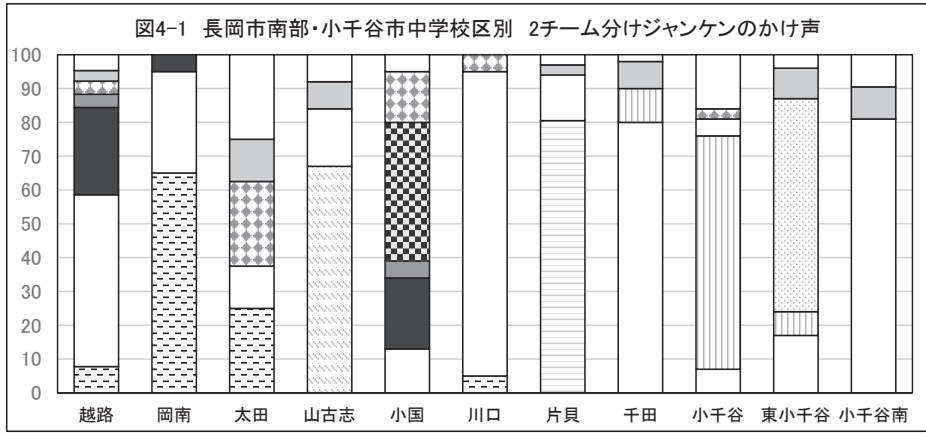
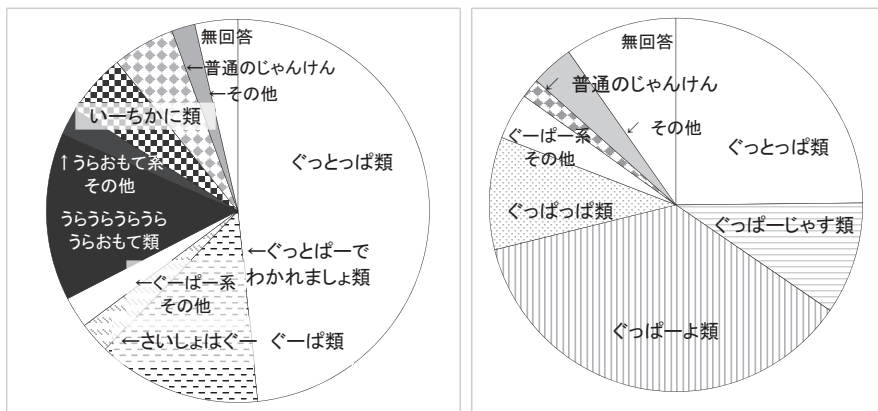


図 4-2 長岡市南部（左）、小千谷市（右）の2チーム分けじゃんけんのかけ声



長岡市南部全体では「ぐっとつぱ類」が最多だが、学校ごとに見ると、それぞれ最多のかけ声が異なっている。越路中学校、川口中学校では「ぐっとつぱ類」、岡南中学校では「ぐっつぱーでわかれましょ類」、山古志小中学校は「さいしょはぐー ぐーぱ類」、小国中学校では県内ではめずらしい「いーちかに類」（人差し指だけを出すか、人差し指と中指の2本を出すかで分ける）が最多回答だった。また小国中と越路中では2割ほど、「うらおもて類」のかけ声が見られた。太田小中学校は小規模校で、回答数が全体で8しかなかったが、「ぐっつぱーでわかれましょ類」、「普通のじゃんけん」が同数だった。

小千谷市全体では「ぐっつぱーよ類」が最多だが、千田中学校と小千谷南中学校では「ぐっとつぱ類」が、東小千谷中学校は「ぐっつぱ類」が最多である。小千谷中学校では「ぐっつぱーよ類」が約8割を、片貝中学校は「ぐっつぱーじゃす類」が約7割を占めている。

3-5 柏崎市・刈羽村の2チーム分けジャンケンのかけ声分布

次の図5の通り、柏崎市では、柏崎駅周辺の学区、市の中心部といえる地域で「ぐっばーぐっばーちょーなっし類」が全回答の約4分の3を占めていることがわかる。ここに含まれるのは、第1中学校、第2中学校、第3中学校、鏡が沖中学校、東中学校と、南中学校区の新道小学校の6校である。

旧刈羽郡の西山町にある西山中学校は、「ぐーっち類」が回答の4分の3を占めているが、北西側に接する出雲崎中学校でも「ぐっちょで類」が4分の3以上を占めていて（図2）、この地域では主にグーとチョキで2チーム分けが行われていることがわかる。一方、西側に隣接する刈羽中学校では「ぐっばーぐっばー なんでもせ類」が4分の3以上を占めており、むしろ柏崎市の中心地区の学区に近いかけ声だといえる。

柏崎駅周辺のすぐ北側に位置する、松浜中学校は「ぐっばーぐっばーぐーば（ぐ）類」が半分弱、瑞穂中学校では「ぐっばーぐっばーわかれっこ類」が半分ほどである。また柏崎市の内陸部にある北条中学校では「ぐーばーぐーばー ぐー（ばー）類」がほとんどだが、さらにその南に位置する第5中学校で「うらおもて類」が見られた。柏崎市の最南部、十日町市寄りの旧刈羽郡にある高柳中学校では「ぐーぐーぐっばっば類」が最多回答だった。ただ北条、第5、高柳中学校はいずれも回答者数が20人未満の学校のため、柏崎市全体で見ると、いずれの回答も少数派となる。

3-6 魚沼市、南魚沼市の2チーム分けジャンケンのかけ声分布

魚沼市では入広瀬中学校で全員が「ぐーっとぐーっとぐっとなっば類」を回答した他は、「ぐっとなっば類」がほとんどの学校で最多回答となっている。「ぐっとなっちょ類」を答えたのは堀之内中学校区内の宇賀地小学校のほぼ全員で、複数回答に「ぐっとなっば類」を書いたものもいた。但し、宇賀地小の回答者数は15人であり、同じ堀之内中学校区の堀之内小学校の回答者数は54人だから、中学校別集計では「ぐっとなっちょ類」は少数回答となっている。また「うらおもて系」の回答はすべて堀之内小学校の児童からのものである。

図5 柏崎市・刈羽村の中学校区別2チーム分けジャンケンのかけ声分布図

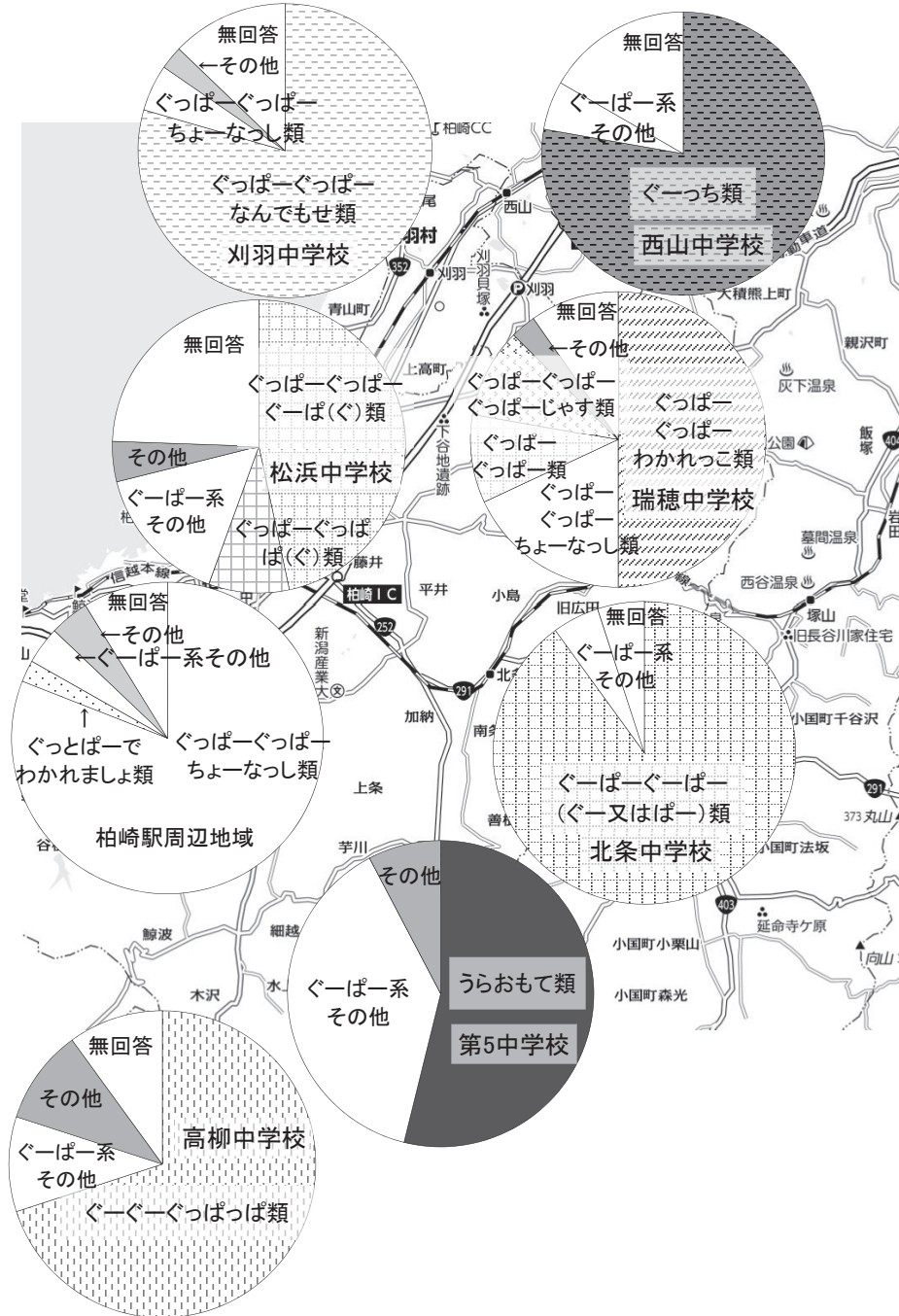
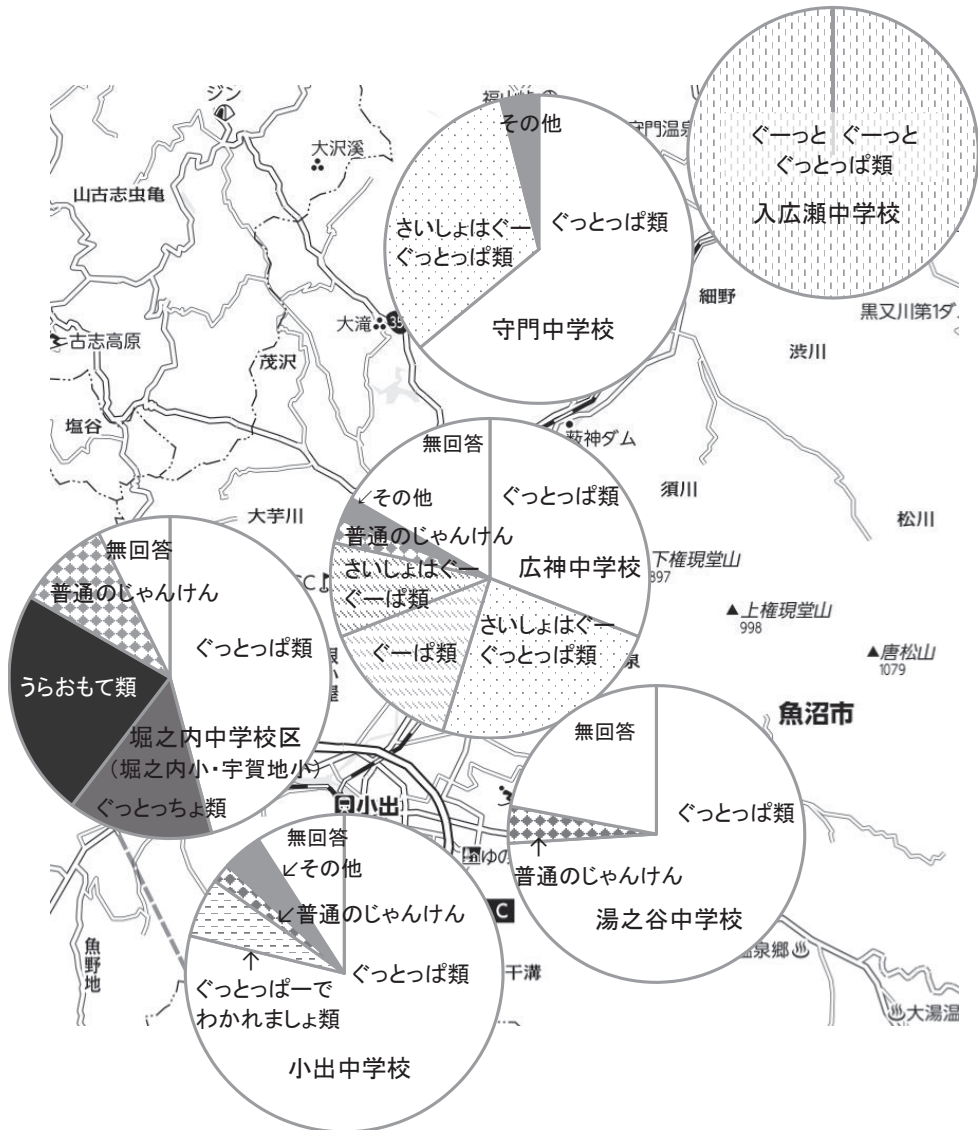
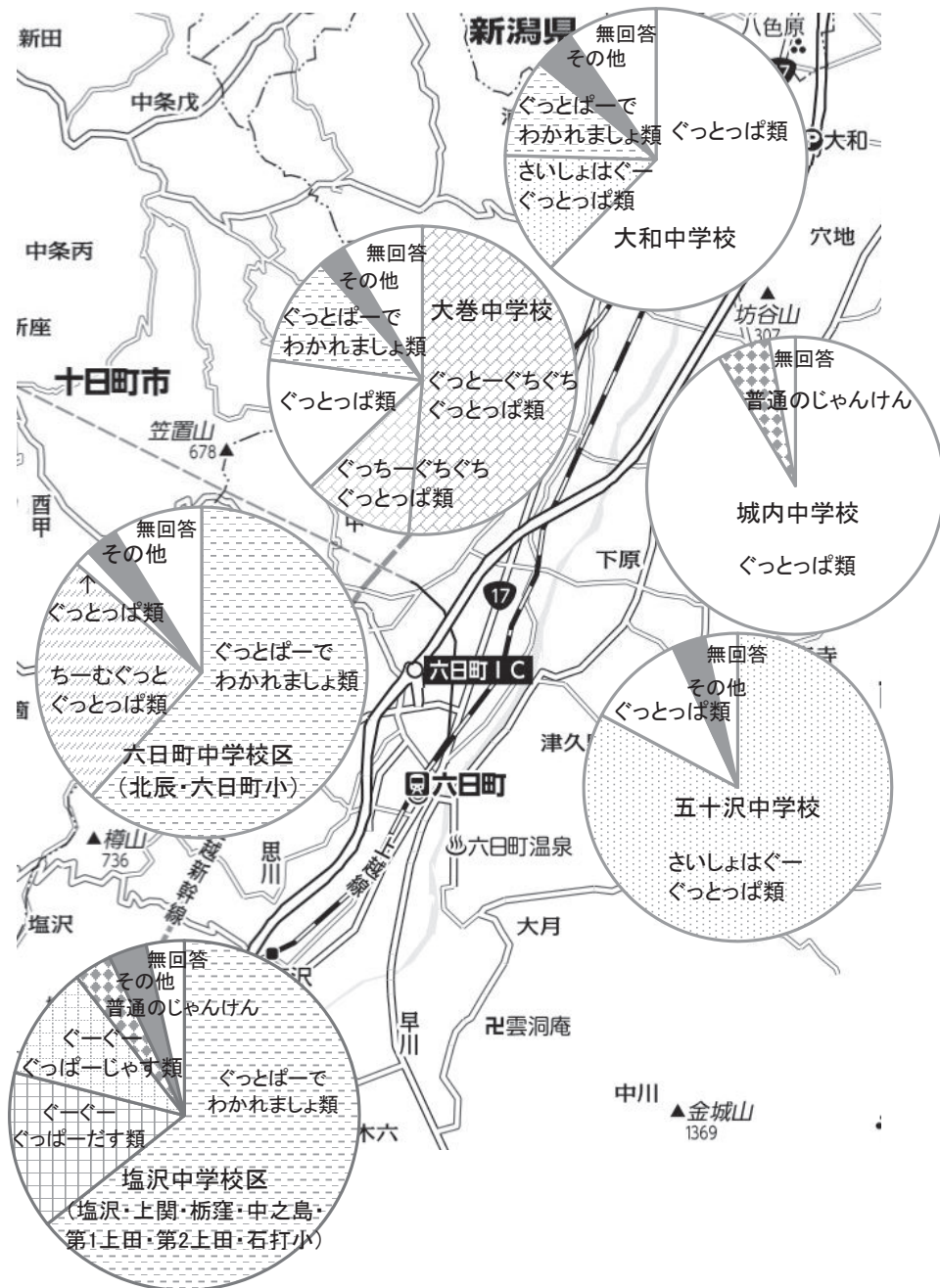


図6 魚沼市の中学校区別2チーム分けじゃんけんのかけ声分布図



南魚沼市では、次の図7の通り、グーとパーで2チーム分けを行うところがほとんどである。学校ごとに、多少異なるが、「ぐととつぱ」に何か加わるタイプのかけ声が多く見られる。また「ぐととつぱーで わかれましょ類」は、六日町中、塩沢中学校区など市南東部（十日町市寄り）に多く見られる。小千谷市の片貝中学校に多く見られた「ぐつぱーじゃす類」に類似した「ぐーぐーぐつぱーじゃす類」は塩沢中学校区内の塩沢小学校で、また「ぐーぐーぐつぱーだす類」は同区内の中之島小、上関小学校でのみ見られた。

図7 南魚沼市の中学校区別2チーム分けジャンケンのかけ声分布図



これらの学区とは接していないが、十日町市最北部にある下条中学校は、「うらうらうらうらうらおもて類」が回答の8割以上を占めた。JR 飯山線沿いに隣接する長岡市の川口中学校区では、ウラオモテ系のかけ声は見られない。一方、西側に隣接する長岡市の小国中学校、また小国中学校よりさらに北の越路中学校で2割ほど、「うらうらうらうら うらおもて類」の回答が見られる(図4-1)が、十日町市内で見られる「う う うらおもて類」や「うらうらうらうらうらおもて類」との関係については、さらに調査が必要である。

4. おわりに

本稿では、2013年から継続して行ってきた新潟県内のジャンケンのかげ声調査の結果から、中越地方の2チーム分けジャンケンのかげ声について地図上にまとめ、その分布状況を明らかにした。本稿は調査結果の単純な記述にとどまるが、今後、それぞれのかげ声がどのようなルートで伝播してきたか、あるいは今後どのような消長を見せるのかを探る上での貴重なデータを得ることができた。

調査にご協力くださった小中学校の先生方、児童生徒の皆様、また郵送料を負担くださった本学の学生の皆さんに深甚の謝意を表したい。

(注1) 調査用紙サイズはA5で、設問は下記の通り。(小学生用には、設問3のない用紙を利用)

新潟県のじゃんけんのかげ声について調べています。皆さんが学校で友だちとじゃんけんするときのかげ声を教えてください。答えたくない質問には答えなくていいです。

1. 普通のじゃんけんのかげ声を教えてください。最初から省略しないで書いてください。
例：さいしょは ぐー、じゃんけんぽい
2. 2つのチームに分かれるときのかげ声を教えてください。最初から省略しないで、書いてください。
例：ぐーばーじゃんけん ぐつつび
3. **出身小学校**を教えてください。 _____ 市立 _____ 小学校
4. **自分と違う**言い方のじゃんけんを聞いたことがあったら、教えてください。

どんなかけ声でしたか? _____

それは普通のじゃんけん・2チームわけじゃんけんのどちらですか? (○をつけてください)

いつごろ聞きましたか? _____ ごろ どのへんで聞きましたか? _____ 市 区・町・村

何才くらいの人が言っていましたか? ○をつけてください 年下 同年代 先輩 大人 老人

ありがとうございました。

新潟国際情報大学 (日本語学担当 非常勤講師)
佐々木香織 literakoya_niigata@yahoo.co.jp

(注2) 調査校一覧

地域内の中学校区数 (実施校の割合%)	調査協力校	調査年	在籍数*	回答者数	回答数	回答率
田上町1学区 (100%)	田上	2014	124	117	120	0.94
加茂市5学区 (100%、須田中、七谷中、加茂中は2回実施。加茂中の1度目は調査用紙回収できず)	須田	2014	21	21	23	1.00
	須田 (本稿のデータには含まれていない)	2015	13	13	15	1.00
	加茂	2015	60	57	57	0.95
	七谷 (本稿のデータには含まれていない)	2014	14	14	14	1.00
	七谷	2015	13	13	15	1.00
	若宮	2014	46	46	49	1.00
	葵	2015	83	78	79	0.94
三条市9学区 (100%、大島中学校は、区内2小学校でも実施)	第四	2013	91	86	91	0.95
	大崎	2013	99	95	105	0.96
	第二	2015	101	82	86	0.81
	第三	2013	115	106	113	0.92
	大島	2013	25	25	26	1.00
	大島小 (大島中学校区)	2013	* 11	11	11	1.00
	須頃小 (大島中学校区)	2013	* 16	14	14	0.88
	下田	2013	79	75	80	0.95
	本成寺	2013	109	106	107	0.97
	第一	2013	171	165	175	0.96
見附市4学区 (100%)	栄	2013	88	79	93	0.90
	見附	2013	95	90	94	0.95
	南	2013	89	86	92	0.97
	西	2013	124	117	127	0.94
	今町	2013	81	75	82	0.93
長岡市27 (100%、但し東北中学区は区内2小学校、川崎、川崎東小で実施、青葉台中は、区内3小学校、青葉台、大積、宮本小で実施、川口中は学区内1小学校の川口小で実施)	堤岡	2014	125	121	125	0.97
	北	2014	53	53	54	1.00
	川崎小 (東北中学区)	2016	62	59	60	0.95
	南	2014	129	120	124	0.93
	東	2014	140	101	107	0.72
	刈谷田	2015	69	62	67	0.90
	秋葉	2015	78	74	91	0.95
	山本	2014	17	17	33	1.00
	旭岡	2014	92	85	103	0.92
	栖吉	2014	59	57	57	0.97
	川崎東小 (東北中学区)	2016	52	45	46	0.87
	太田**	2014	5	5	5	1.00
	太田小	2015	3	3	3	1.00
	太田	2015	6	4	5	0.67
	岡南	2014	39	38	40	0.97
	宮内	2014	197	174	197	0.88
	江陽	2014	122	117	125	0.96
	関原	2014	93	86	109	0.92
	宮本小 (青葉台中学区)	2016	11	11	13	1.00
	大島	2014	117	91	93	0.78
西***	2015	185	71	78	0.38	

地域内の中学校区数 (実施校の割合%)	調査協力校	調査年	在籍数*	回答者数	回答数	回答率
長岡市 27 (100%、但し東北 中学区は区内2小学校、川崎、 川崎東小で実施、青葉台中は、 区内3小学校、青葉台、大積、 宮本小で実施、川口中は学区 内1小学校の川口小で実施)	青葉台小 (青葉台中学区)	2016	43	41	42	0.95
	大積小 (青葉台中学区)	2016	9	9	9	1.00
	三島	2014	62	60	81	0.97
	与板	2014	67	64	65	0.96
	寺泊	2014	82	80	85	0.98
	山古志	2015	6	6	7	1.00
	山古志小	2015	4	4	5	1.00
	北辰	2014	34	33	43	0.97
	小国	2014	30	27	39	0.90
	越路	2014	107	103	128	0.96
	川口小 (川口中学区) * * * *	2016	86	77	78	0.90
中之島	2014	109	108	130	0.99	
出雲崎町 1 学区 (100%)	出雲崎	2014	31	28	29	0.90
刈羽村 1 学区 (100%)	刈羽	2014	40	39	39	0.98
柏崎市 12 学区 (100% た だし、柏崎南中は、学区内1小 学校の新道小で実施)	松浜	2015	44	39	45	0.89
	瑞穂	2014	83	69	72	0.83
	第二	2015	85	81	84	0.95
	第一	2014	62	56	58	0.90
	西山	2014	35	34	36	0.97
	鏡が沖	2015	117	105	113	0.90
	第三	2014	97	95	95	0.98
	新道小 (南中学区)	2015	44	41	42	0.93
	東	2014	98	94	98	0.96
	第五	2014	11	11	13	1.00
	高柳	2014	10	10	10	1.00
	北条	2014	19	19	20	1.00
小千谷市 5 学区 (100%)	東小千谷	2015	48	39	46	0.81
	小千谷	2015	143	141	146	0.99
	千田	2015	41	41	49	1.00
	片貝	2015	34	33	36	0.97
	南	2014	19	19	20	1.00
魚沼市 6 学区 (100%た だし、堀之内中学は、学区内2小 学校宇賀地、堀之内小で実施)	小出	2015	104	96	99	0.92
	湯之谷	2015	52	50	50	0.96
	広神	2015	65	40	42	0.62
	守門	2015	25	25	25	1.00
	入広瀬	2015	10	10	10	1.00
	宇賀地小 (堀之内中学区)	2015	15	15	20	1.00
堀之内小 (堀之内中学区)	2015	55	54	76	0.98	
湯沢町 1 学区 (100%)	湯沢	2015	48	48	52	1.00
南魚沼市 6 学区 (100%、た だし塩沢中学区は、区内7小 学校すべてで実施、六日町中 学校は区内2小学校六日町、 北辰小で実施)	石打小 (塩沢中学区)	2016	22	21	21	0.95
	上関小 (塩沢中学区)	2016	20	20	21	1.00
	栃窪小 (塩沢中学区)	2016	3	3	3	1.00
	塩沢小 (塩沢中学区)	2016	63	61	69	0.97
	中之島小 (塩沢中学区)	2016	32	31	34	0.97
	第一上田小 (塩沢中学区)	2016	13	13	13	1.00

地域内の中学校区数 (実施校の割合%)	調査協力校	調査年	在籍数*	回答者数	回答数	回答率
南魚沼市6学区(100%、ただし塩沢中学区は、区内7小学校すべてで実施、六日町中学校は区内2小学校六日町、北辰小で実施)	第二上田小(塩沢中学区)	2016	10	10	10	1.00
	六日町小(六日町中学区)	2015	82	77	81	0.94
	北辰小(六日町中学区)	2015	50	41	44	0.82
	五十沢	2015	31	29	29	0.94
	大巻	2015	35	34	35	0.97
	城内	2015	38	35	35	0.92
	大和	2015	120	109	114	0.91
十日町市10学区(100%、ただし、中条中学校は、区内3小学校、東、中条、飛渡第1小の3校で実施。十日町中学校は学区内1小学校、十日町小で実施、吉田中学校は、学区内2小学校の吉田小、鏡島小で実施)	東小(中条中学区)	2015	40	38	38	0.95
	中条小(中条中学区)	2015	28	28	29	1.00
	飛渡第一小(中条中学区)*****	2015	4	4	4	1.00
	十日町小(十日町中学区)	2016	47	44	54	0.94
	南	2015	82	81	105	0.99
	吉田小(吉田中学区)	2015	11	11	11	1.00
	鏡島小(吉田中学区)	2015	10	11	11	1.10
	川西	2015	53	52	61	0.98
	松之山	2015	15	13	13	0.87
	松代	2015	17	17	17	1.00
	中里	2015	31	27	27	0.87
	水沢	2015	41	35	45	0.85
下条	2015	28	22	26	0.79	
津南町1学区(100%)	津南	2015	58	56	58	0.97
湯沢町1学区(100%)	湯沢	2015	48	48	52	1.00

*在籍数は、各年度の学校基本調査による。但し、2016年度調査校は、学校基本調査の結果が出ていないので、2015年度の該当学年の数字を利用。 *大島小、須頃小の在籍数は、Gaccom(学校教育情報サイト)の数字による。

**太田中学校は、用紙未回収のため、この調査には含まれない。

***長岡市立西中学校は、調査を実施できないクラスがあったため、在籍数に対する回答率が低い。

****川口小学校は5、6年生で実施。在籍児童数は、2016年度5年生46人、6年生40人の合計。(学校に電話で確認)

*****飛渡第1小(在籍数は5、6年生の合計。6年生1人、5年生3人)

参考文献

佐々木香織(2013)「燕市における2チーム分けジャンケン」(明海日本語 第18号増刊号 井上史雄先生古稀祝いオンライン論文集、pp.113-128)

佐々木香織(2014)「新潟県佐渡・下越地方の2チーム分けジャンケンのかけ声～Picasa ウェブアルバムとGoogle Earthで作る言語地図～」(新潟国際情報大学 情報文化学部 第17号 紀要 pp.1-14)